

ダイキン低温用エアコン 据付説明書

2P112704-2B

LCDMP(K)02・05AS

据付工事を行う前に必ず読んで、本書にしたがって工事をしてください。

据付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、**確実に**行ってください。

●ここに示した注意事項は、次の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- 警告** 誤った取扱いにより、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
- 注意** 誤った取扱いにより、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。状況によっては重大な結果に結びつく可能性もあります。

●据付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書とともにお客様で保管いただくように依頼してください。

警告

- 据付けは、販売店または専門業者に依頼してください。ご自分で据付けされ不備があると、水もれや感電、火災などの原因になります。
- 据付け工事は、据付説明書にしたがって確実に行ってください。据付けに不備があると、水もれや感電、火災などの原因になります。
- 据付けは、ユニットの重さに十分耐える所に確実に行ってください。強度不足や取付けが不完全な場合は製品、ユニット落下により、ケガの原因になります。
- ユニットは、水のかかる恐れのある場所に据え付けしないでください。発熱や感電の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用してください。指定の部品を使用しないと、ユニットの落下、水もれ、感電、火災などの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付け工事を行ってください。据付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程JEAC8001(最新のもの)」および据付説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路不良、容量不足や施工不備があると、感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定の電線を使用して確実に接続し、端子接続部に電線の外力が加わらないよう確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合、発熱、火災などの原因になります。
- 現地配線は、電装品箱ふたなど構造物が浮き上がらないよう電線を整形し、ふたを確実に取りつけてください。ふたの取り付けが不完全な場合、端子部の発熱、感電、火災などの原因になります。
- 保護装置、安全装置の設定値変更はしないでください。設定値を変えると製品、ユニットの破損、発火の原因になります。

注意

- アース工事を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合、感電の原因になることがあります。
- 漏電しゃ断器を取付けてください。漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電や火災の原因になることがあります。
- ドレンホース工事は、この据付説明書にしたがって取付けてください。取付工事に不備があると、庫内の保管物や周囲(家財など)をぬらす原因になることがあります。
- 電源コードはテレビ・ラジオから1m以上離して設置してください。映像の乱れや雑音を防止するためです。(ただし電波状態によっては、1m以上離しても雑音が入る場合があります。)
- 次のような場所への設置は行わないでください。
 1. 鉱物油がたち込めたり、調理場など、食用油の浮遊しているような雰囲気のある場所。…樹脂部品が劣化し、部品の落下や水もれの原因になることがあります。
 2. 亜硫酸ガスなど腐食性ガスの発生する場所。…銅管、ろう付部が腐食し、冷媒もれの原因になることがあります。
 3. 蒸気や水噴射などが特に多い場所。…水もれや、氷結の原因になることがあります。
 4. 電磁波を発生する機械がある場所。…制御系統に異常を生じ、正常な運転ができない原因になることがあります。
 5. 可燃性ガスのもれるおそれのある場所、カーボン繊維や引火性粉塵の浮遊する場所、およびシンナー、ガソリンなど揮発性引火物を取り扱う場所。…万が一ガスがもれて、ユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
 6. 車両や船舶など、振動や移動を伴う場所。…冷媒もれによる酸欠(発煙、発火)の原因になることがあります。
 7. 電圧変動の激しい場所。…機械の故障原因になることがあります。

【付属品】 次の付属品を確かめてください。

名称	①固定金具	②ねじ(大)	③吹出ダクト	④ネジ(小)	⑤ホースバンド	⑥アース線	⑦結束バンド	その他
個数	4個	4本	1個	6本	2個	1本	2個	取扱説明書 保証書
形状								

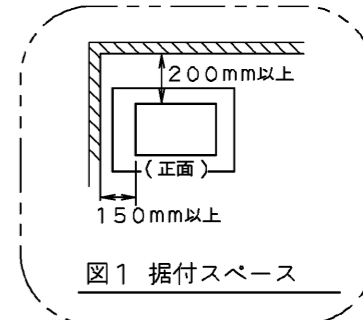
1 据付けの前に

◀据付け工事に必要な付属品は据付け工事が完了するまで捨てないでください。▶

搬入時は据え付ける場所まで梱包のまま搬入してください。やむをえず開梱して搬入する場合は、ユニットを傷つけないよう注意してください。(ユニット移動の際、とってを持って移動してください。)

2 据付場所の選定

- (1)下記の場所に据え付けてください。
 - ・風通しがよく湿気の少ないところに据え付けてください。(凝縮器の排熱がこもる場合は換気扇をつけてください)
 - ・据付け、点検、サービスの作業のためのスペースを確保してください。
 - ・ユニットの重さに耐える強度のあり、運転音や振動が増大しないところ。
 - ・吸込口、吹出口に障害物のない冷風が庫内全体にいきわたるところ。
 - ・ドレンの排水が確実にできるところ。
 - ・運転音などで隣家に迷惑のかからないところ。
- (2)下記の場所での据付、および使用は避けてください。
 - ・直射日光があたったり、雨や水滴がかかる場所。
 - ・切削油など鉱物油のたち込める場所。
 - ・酸、塩分、硫黄分および亜硫酸ガスなどの腐食性ガスの発生する場所。
 - ・シンナー、ガソリンなど揮発性引火物を取り扱う場所。
 - ・調理場など、油の飛沫や蒸気の多い場所。
 - ・電磁波を発生する機械がある場所。



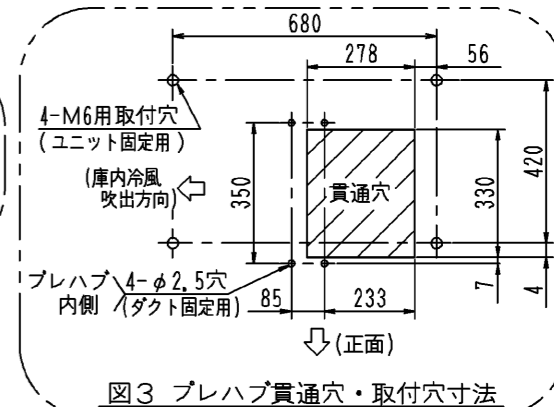
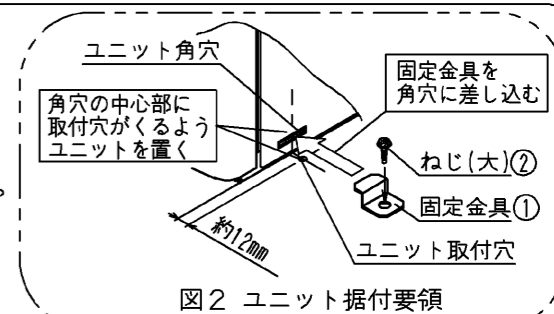
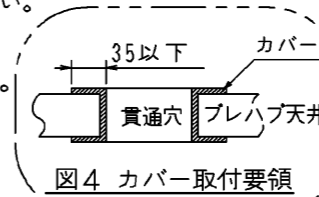
3 据付工事

◀ご注意▶ ユニットの水準器で必ず水平になるように据え付けてください。傾きがあると庫内に水がもれるおそれがあります。

ユニットの据付

- 【ダイキン指定のプレハブに据え付ける場合】
1. プレハブ天井面にユニットを静かに乗せてください。
 2. ユニットの側面の角穴中央部に取付穴がくるよう位置を合わせてください。
 3. 固定金具①をユニット側面の穴に図のように差し込んでください。
 4. ねじ(大)②で固定してください。

- 【ダイキン指定外のプレハブに据え付ける場合】
1. プレハブの天井はユニットの重さに十分耐える構造にしてください。
 2. 庫内全体に冷風がいきわたるような位置に貫通穴、取付穴および庫内にダクト取付用下穴をあけてください。(図3参照)
 3. 貫通部の端面は結露水でぬれないようカバーを取り付けてください。
 4. 【ダイキン指定のプレハブに据え付ける場合】の順序にしたがってユニットを据え付けてください。



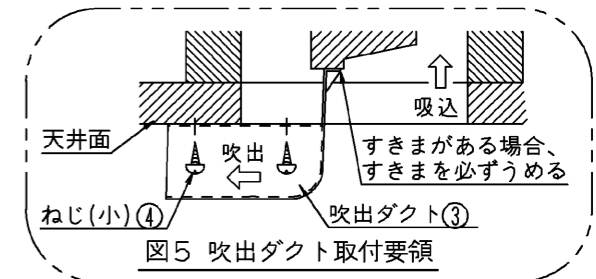
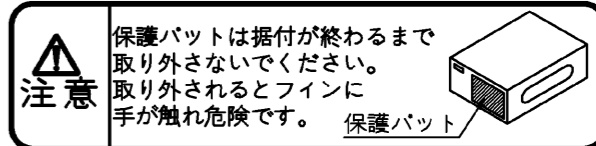
- ・ユニットの固定が終わったら、プレハブ内側より天井面とユニットの間にすきまがないか確認してください。すきまがある場合、内側よりシール剤などですきまを確実にうめてください。

◀ご注意▶
 ・ユニットは静かに乗せ、引きずらないでください。
 ・ユニットは逆さにしたり、横にしたりしないでください。

吹出ダクトの取付

1. 吹出ダクト③をプレハブ内側の穴にねじ(小)④4本で取り付けてください。
2. ダイキン指定のプレハブ以外で、プレハブ厚みが4.5mm以上の場合、ユニットと吹出ダクトの間にすきまができます。このとき、すきまはシール剤などで確実にうめてください。

◀ご注意▶
 ・吹出ダクトは必ず取り付けてください。取付を忘れた場合、冷えないおそれがあります。



裏面に つづく

ドレンホースの取付

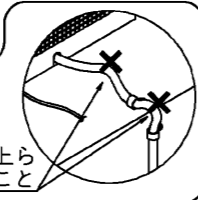
注意

ドレンホース工事は確実に行ってください。ノンドレン機能を採用していますが、異常な使い方や周囲の温湿度条件によってドレンホースから排水する場合があります。

- ドレンホースを付属のホースバンド⑤とねじ(小)④で2ヶ所固定し、出口がプレハブ背面にくるようにしてください。

注意

ドレンホースを固定する時、プレハブの天面および側面に添って固定しホースが浮き上がらないようにしてください。(右図参照) 浮き上がったままで固定すると、庫内に水がもれるおそれがあります。



- ドレンホースは必要に応じて延長し、排水溝などに流してください。このとき、延長したドレンホースにはドレントラップを設けないでください。

注意

ドレントラップはユニットに内蔵されていますのでドレンホースにトラップを設けないでください。万が一、ドレンホースから排水されるような場合になったとき、ドレンホースから排水されず庫内への水もれの原因となります。

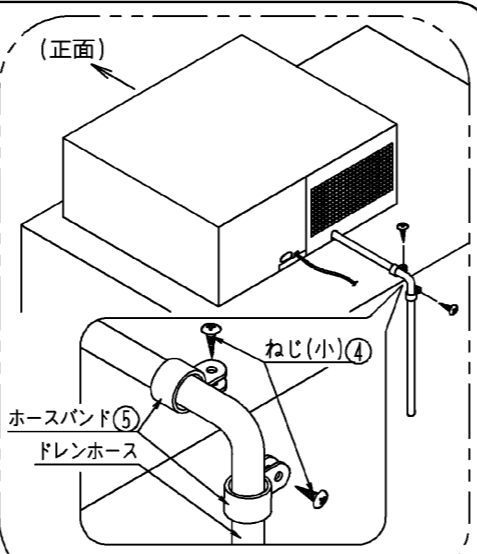


図6 ドレンホース付要領

4 電気配線工事

注意

漏電しゃ断器を設置してください。
・感電、火災事故防止のため漏電しゃ断器の設置が義務づけられています。

- 電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。(電気配線工事は電気工事士または電気主任技術者の資格が必要です。)
- 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」にしたがって施工してください。
- 本ユニットは100V仕様です。
- 電源は専用回路を設け、漏電しゃ断器を設置してください。
- 電気配線工事を行う際は、必ず電源をしゃ断してから行い、開閉器はすべての作業が終わるまで入れないでください。
- D種接地工事は必ず行ってください。
- 接地抵抗は100Ω以下にしてください。
漏電しゃ断器が設置される場合は、保護接地抵抗値が適用できます。(保護設置抵抗値は電氣的危険度が高い場所で250Ω以下、その他の場所では500Ω以下にしてください。)
- アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
・ガス管…ガス漏れ時の爆発、引火の危険性があります。
・水道管…硬質ビニル管が使用されている場合、アースの効果がありません。
・電話線のアースや避雷針…落雷時のアース電位の異常上昇の危険性があります。
- アース線⑥は本体のアース端子に接続し、端子部に外力が加わらないよう結束バンド⑦で電源コードに結束してください。

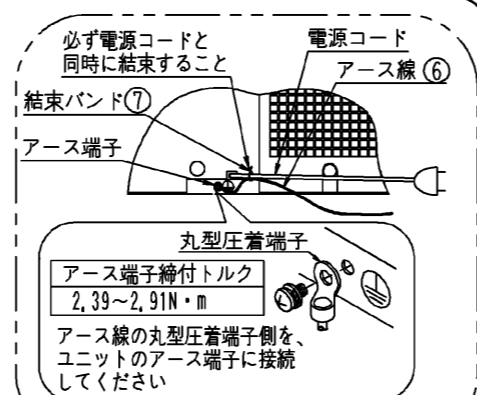
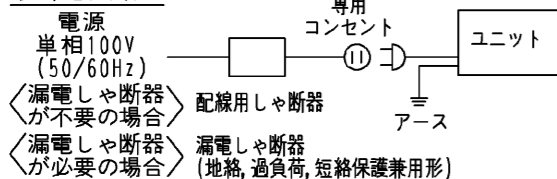


図7 アース接続要領

標準配線器具明細【内線規程JEAC8001(最新のもの)による】

機外配線要領



電源電線 (注1)		分岐開閉器・過電流しゃ断器		コンセント	アース線 (銅)
最小太さ	最大こう長 (注2)	配線用しゃ断器使用の場合 定格電流	漏電しゃ断器使用の場合 (地絡、過負荷、短絡保護兼用)		
2mm ²	30m	15A	15A, 30mA 0.1sec以下	AC125V 15A	2mm ² (φ1.6m)以上 (2mm ² 4m付属)

注1)本ユニットは、プラグ付電源コード(2mm² 4m)付きです。
注2)最大こう長は電圧降下2%の場合を示します。

注意

・本ユニットは交流100V専用機です。交流200Vでは絶対に使用しないでください。
・他の機械とのたこ足配線は、絶対にしないでください。

ドアヒータ(結露防止ヒータ)・凍結防止ヒータを接続する場合

◎本ユニットは、下記容量のヒータが接続できます。
それ以上のヒータを使用する場合は、別途専用回路を設けてください。

	端子番号	動作	ヒータ仕様
ドアヒータ (結露防止ヒータ)	(1)・(2)	元電源が入ると通電します。	AC100V 20W以下
凍結防止ヒータ	(3)・(4)	庫内温度0℃以上:ON(入) 庫内温度2℃以下:OFF(切)	AC100V 200W以下 (注)

(注)過熱防止装置と温度ヒューズ付のヒータをご使用ください。

- 作業は、必ず電源をしゃ断してから行い、開閉器はすべての作業が終わるまで入れないでください。
- 配線工事は「電気配線図銘板」に基づいてください。
- ユニット背面の電装品箱ふたのねじ3本を外し、ふたを外します。
- 配線貫通部のプッシュに電線が通る分の切り込みを入れてください。

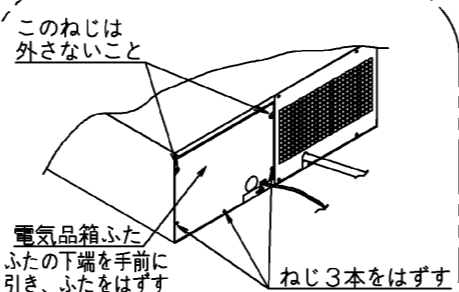


図8 電装品箱ふたの外しかた

- 貫通部プッシュに電線を通し、端子台に確実に接続してください。
- 端子ねじを締付けすぎるとねじを破損する可能性があります。
締付トルクは下図を参照してください。
- 電線は、接続した端子部に力が加わらないように、底フレームのクランプ材に結束バンド⑦で結束してください。
- 電線のかみ込みがないよう注意しながら、ふたを取りつけてください。
- 余った電線を束ねて機械の中に押し込むことは絶対にやめてください。

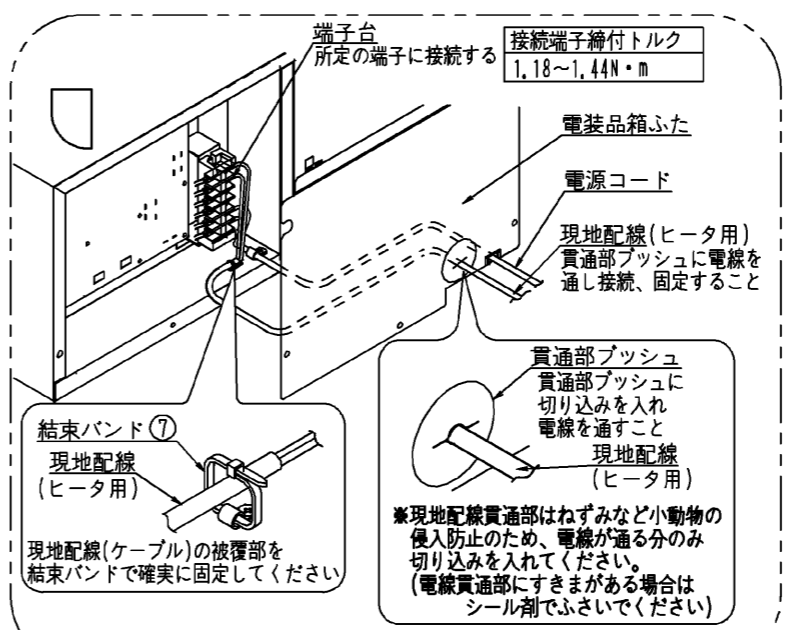


図9 ヒータ接続要領

「現地配線時のご注意」

端子台への接続は、丸型圧着端子を使用してください。やむをえず使用できない場合には、下記事項を必ずおまもりください。
・端子台に2本の異径電線は接続できません。
(電線のゆるみ等により異常発熱の恐れがあります。)
・同径の電線を接続する場合は右図のように接続してください。
・配線は、所定の電線を使い確実に接続し、端子部に外力が加わらないように固定してください。
・端子ねじは適正な締付トルクで締め付けてください。
・端子のねじの締付には、適正なドライバーを使用してください。
・小さいサイズのドライバーはねじ頭部を傷め、適正な締付ができません。
・端子ねじを締め付けすぎると破損する可能性があります。

現地配線仕様
最小太さ 0.75mm ² (φ1.0mm)以上のケーブル

「注意」

「電気設備の技術基準」および「内線規程JEAC 8001(最新のもの)」では、屋内に固定して施設する配線への、コードの使用を禁じています。現地配線にはコードを使用しないでください。
例：VCTF(使用不可)、VVケーブル(使用可)

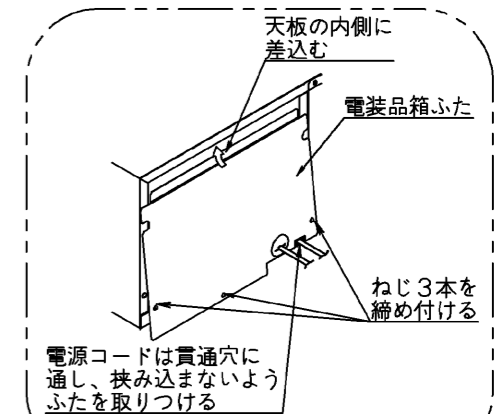
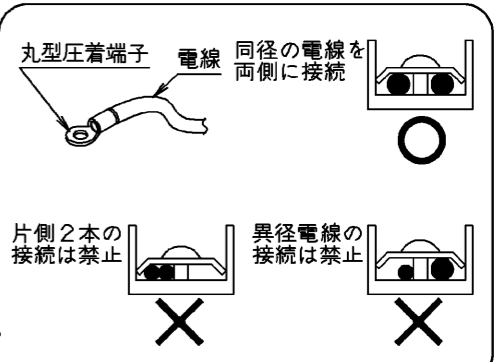


図10 電装品箱ふたの取付かた



5 工事完了後の確認・試運転

◎工事完了後、次の項目を確認してください。

- ユニットは傾いていませんか。
- ドレンホースはきちんと取付けていますか。
- プレハブ面とユニット面にすまぎがありませんか。
- 吹出ダクトは正しく取り付けていますか。また、取付けたねじがゆるんでいませんか。
- アース工事はされていますか。
- ヒータの誤配線はありませんか。
- 電装品箱のふたを取り付けていますか。
- ユニットの吸込・吹出口付近に障害物はありませんか。

◎試運転は、次の要領で行ってください。(取扱説明書も参照してください。)

- 電源を入れる前は、つぎのことを確認してください。
・電装品箱のふたがきちんと取り付けていますか。(感電の原因になることがあります。)
・専用コンセントに電源プラグを差し込み、開閉器を入れてください。
- 温度表示部に「88」を数秒間表示した後、「—」を表示します。

「注意」

●「88」を表示したあと庫内温度を表示する場合は、「運転/停止」ボタンを押し運転を停止し、電源を切って約3分待ってから再度運転してください。

- 「運転/停止」ボタンを押してください。運転を開始します。

「注意」

●「運転/停止」ボタンを押しても運転しない場合、設定温度が庫内温度(周囲温度)以上になってないか確認してください。

- 庫外・庫内の風の方向や、異常な音・振動がないか確認してください。
- 確認終了後は、必ず「運転/停止」ボタンを押して運転を停止してください。
- 温度表示部に「—」を表示しているのを確認してから、開閉器を切ってください。

据付・試運転が完了しましたら、販売店様よりお客様に対し、機械の取扱いについて、十分ご説明いただくようお願いいたします。